

## 上海中医学院附属岳陽病院見学

古屋 亜季(東京女子大学)

### ・岳陽病院の特徴

病院の玄関に佇む中医学創始者の像が示すように、この病院では中医学を中心とした医療・研究を行っている。そのため、日本の病院では通常見かけない様々な診療科目（例えば針、灸、推拿（マッサージ）、気功、漢方薬など）が設置され、医療において重要な地位を占めている。さらにこの病院では、近年になってから西洋医学も積極的に採り入れ、両者を総合した中国でも珍しい病院となった。この業績が認められ、2003年には全国重要中西総合病院に認定されている。

大学の学生は約600人で、3年で看護、5年で学士、7年で修士の資格が授与される。さらに、その後も研究生として研究を続けることは可能なシステムとなっている。中国では、中医学と西洋医学のどちらかを専攻し、修了すれば医師として認定され、その後は両者とも地位や報酬は同程度に扱われる。しかし、この大学の7年課程では中医学と西洋医学の両方が必修であるため、かなり高い学問水準を求められるという。

### ・病院内見学

病院の歴史・規模・システムについての説明を拝聴した後、実際の中医学の治療現場を見学した。治療中の患者にお話を伺うと、西洋医療を試したものの、原因不明と言われ治癒しなかったが、中医学に転換したところ回復傾向にあるという方や、もともと中医学への信頼が厚く、病気の際は必ず中医学の治療を受けるという方がい

らっしゃった。このことから、中国では中医学が人々の間に深く浸透していることが分かる。日本では西洋医学が当然のことのように考えられ、中医学に対しては、医者としての面でも医療保険への適用の面でもあまり重要視されていないという状況とは対照的である。

次に漢方薬の処方をする部屋へ案内していただいた。漢方薬の詰まった沢山の引き出しや秤、独特なおいにおいに満たされた部屋は私たちの好奇心を刺激する場所であった。イモリやサソリ、その他のどれも珍しい動植物が患者一人一人の症状に合わせて調合される。中国では漢方薬を煮出して飲むことが多いため、一度に大量の漢方薬を購入する必要がある。これは、日本などに良質な漢方薬が輸出され、中国では逆に効能の少ない部分を沢山摂取しなければならなくなってしまうことも背景にあるという。



### ・見学を終えて

病院内を見学してみて印象的だったことは、病気の治療中という、おそらく一番他者との接触を避けたいときに、私たち見学者の質問に快く答えて下さった患者の方たちの温かさである。中医学とともに、そのような温かい人柄からも、私たちが学ぶべきことは多いと感じた。